



キルギス国旗



ふらくむ通信

Project on Improvement of Human Resources in Food Laboratories for
Improvement of Quality of Milk and Dairy Products(FLAQUUM)
キルギス共和国乳品質向上のための食品検査人材育成プロジェクト

第 8 号 2023 年 8 月

【プロジェクトのカウンターパート（技術協力対象機関）】

省 名	部署/機関名（略称）	機能（役割）
経済商務省	技術規則・度量衡部	（プロジェクト実施責任）
	度量衡センター試験認証センター 食品検査所（CSM）	食品検査
保健省	疾病予防衛生疫学監督部（DPSSSES）	食品検査、食品衛生監査
農業省	獣医衛生検査院（VS） 獣医診断検査センター（CVDE）	生乳・乳製品検査、獣医衛生監査

巻頭言

今回の主なトピックは、プロジェクト終了に関わる JICA 評価調査団の受入とそれに伴う第 6 回 JCC 会議の実施、またキルギス側からプロジェクトの対象地域拡大の要請があったことから地方の乳製品製造段階における衛生検査や監査についての現地調査です。

終了時評価では、プロジェクトの開始からこれまでに至る活動実績とそれぞれの成果の達成度について総合的な判断がされますが、プロジェクト専門家とカウンターパート（C/P）とのチームワークの在り方が問われるものとも言えます。多少の改善点や留意事項の指摘はあったものの、計画通りプロジェクト目標や成果の達成が見込まれるという評価を得ることができました。

プロジェクトの C/P から今後の展開として、対象地域を中央組織中心から地方への拡大の要請がありました。そこで、プロジェクト期間中に主な地方の乳製品バリューチェーンにおける食品安全確保のための検査や監査の現状と研修ニーズの調査を行いました。

以下、今回の主なプロジェクト活動についてご紹介します。

1. 最近の主な活動トピック

1.1 JICA 終了時評価調査団の受入

2023年12月のプロジェクト履行期間終了にあたり、JICA 経済開発部からの調査団が現地入りし、日本キルギス合同で評価調査が実施され、プロジェクトは必要な情報提供やサポートを行いました。主な調査事項は以下の通りです。

- ① PDM*に基づいて、プロジェクトの投入・活動・成果の確認
- ② プロジェクト目標と成果の達成状況、貢献・阻害要因の分析
- ③ 評価6項目の観点からのプロジェクト評価
- ④ 酪農分野の協力実績と教訓をとりまとめ、今後の協力方針の検討
- ⑤ 調査結果を合同評価調査レポートとして取りまとめ、JCCで報告
(PDMとは、Project Design Matrixの略で、プロジェクト計画の概要(目標、成果、活動、指標など)を一つの表にまとめたもの)



調査実施にあたり経済商務省副大臣表敬



評価調査団の保健省地方検査所視察

1.2 第6回 JCC 会議の開催

合同調整委員会(JCC)会議は終始和やかな雰囲気で行われました。会議の冒頭、プロジェクト活動に関連して、経済商務省副大臣から、最近乳製品工場がロシアの動植物検疫局に監査され、検査所の品質管理強化と製品トレーサビリティ確保が提言されており、それらについてプロジェクトが留意してほしいこと、又 JICA キルギス事務所所長からは、新型コロナにより延長されたプロジェクトへの継続的なサポートへの感謝とプロジェクトの持続的発展にとって重要な役割を果たす ToT*研修の実施の取り組みなどが紹介されました。

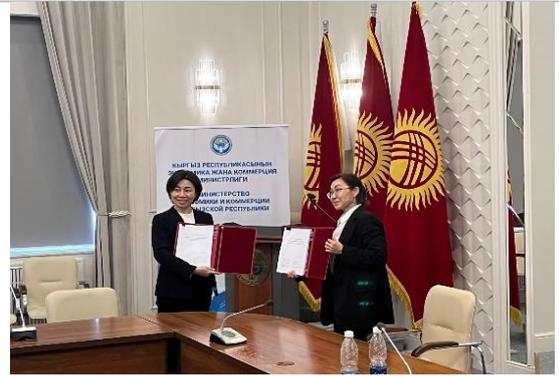
その後、C/P からプロジェクト活動の実績や成果について発表があり、終了時評価調査団から、以下の調査結果報告とプロジェクトへの提言がなされました。

- ・ ほとんど全てのプロジェクト活動は計画通り実施され、プロジェクト目標も達成されていることから、2023年12月には終了することの結論
- ・ キルギスの食品安全マネジメントシステム構築のために監査チェックシートの統一やガイドライン案の策定についての提言

(ToTとは、Training of Trainersの略で、トレーナーの育成によりC/Pが自ら研修することができるようになり、プロジェクトの自立発展性につながることを期待される)



JCC での C/P からの成果発表



合同評価調査団の署名式

1.3 地方における生乳・乳製品の衛生管理及び研修ニーズについての調査

本プロジェクトが 2023 年 12 月に終了することで、C/P からプロジェクトエリアの地方への拡大要請がありました。そこで、地方における乳製品の衛生管理の現状と研修ニーズについて調査を行っています。ここでは、ビシュケクの北西部にあるタラス州における食品検査所や工場監査員の活動、乳製品加工工場の現状などについての調査を紹介します。

タラス州は周囲を山に囲まれ、酪農、豆類、穀類などの生産が盛んな地域であり、人口当たりの乳牛飼養頭数が多く酪農は主要産業の一つです。キルギスの北西部にありカザフスタンやウズベキスタンにも隣接していることから、その地の利を生かして、乳製品をロシアやカザフスタンなどに輸出している乳業会社があります。

[地方食品検査所]

保健省と農業省の検査所は、地方の食品企業から依頼を受けて食品分析を実施しています。中央の検査所とは異なり最先端の機器はありませんが、国の基準に定められた方法を使って行政機関としての検査を実施しています。地方では地域の特性やニーズに応じて検査サービスを提供することが必要ですが、中央（ビシュケク）検査所との連携によって国全体の食品安全を確保することができますと言えます。



保健省地方検査所の比色計（左奥は新型）



農業省タラス獣医診断センターの ELISA*

(ELISA とは、Enzyme-linked immune-sorbent assay の略で、抗体を使った免疫学測定法の一つ。この検査所では抗生物質の分析に使用します)

[地方監査員事務所]

農業省と保健省の地方監査員が、食品のバリューチェーンにおける原材料としての生乳から製品の製造・市場までの衛生管理について、それぞれの役割に応じて農家や工場、市場における監査をしています。地方の監査員がビシュケクに行って研修を受けることはありますが、現地で実践的な研修を受ける機会は多くありません。また、地方の監査員だけでなく中小企業職員の食品衛生に関する技術や知識も高める必要があることが分かりました。

プロジェクトでは HACCP 監査能力の向上のための監査チェックシートや監査員用の研修テキストの作成をしてきましたが、地方への展開にあたって地域の特性やニーズに合わせた支援が必要と思われます。



農家における集乳缶の衛生状況確認



乳業会社での食品衛生ショートセミナー

編集後記

この記事を書いているときに、日本では台風7号が猛威を振るっていました。毎年のことですが、各地で甚大な被害が報告されています。キルギスの酪農関係者に次のように問いかけることがあります。「キルギスで酪農をやるのと、日本でやるのとではどちらが苦勞すると思いますか？」ほとんどの人は、「そりゃキルギスですよ」と答えます。それに対して私は、「とんでもない。日本のほうが大変だよ」と答えます。怪訝な表情の彼らに対して次のようにわかりやすく説明すると納得顔になります。

「どちらの国も四季があるのは同じです。でも、それぞれの季節の状況には大きな相違があります。春と秋はだいたい同じですが、夏と冬は大きな違いがあります。夏になるとキルギスには台風がないが、日本は毎年のように台風に襲われ犠牲者も多い。せっかく建てた牛舎が大風で倒壊することもあります。冬になると日本の多くの酪農地帯では大雪に苦勞する。豪雪地帯では、牛舎の屋根には2mもの雪が積もり、雪下ろしをしないと建物が崩壊することもあります。それに引き換えキルギスの積雪量はせいぜい50cmです。

「季節以外では、日本はいつも地震と津波に怯えざるを得ない。最大の相違点は農耕地の

土壌品質です。キルギスの土壌は世界最高品質ともいわれるチェルノーゼムで、重要な牧草種、アルファルファも立派に生育できるが、日本の土壌ではそうはいきません。」

このような話を酪農関係者たちと楽しむことができるのもあと3ヶ月あまりとなります。終了時評価及びJCCで指摘された課題・提言について関係者一同、力を合わせて最後まで頑張ってまいります。(了)